

オンラインでの関わりや学びの探究

南山大学人文学部心理人間学科 中 村 和 彦

新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年4月より、南山大学でもオンライン授業が開始された。人間関係研究センターの公開講座も、2020年度と2021年度はオンラインで開催されている。この間、ラボラトリー方式の体験学習のオンライン化を推進し、大学外で行う組織開発の講座や対話の場をオンラインで行ってきた。同僚（特に池田先生）とともにオンライン化した実習は、オンラインで実施がしやすいコンセンサス実習のほか、「匠の里」、「持ち寄りホームパーティ」、「名画鑑賞」、オンライン用に新たに開発した実習が「ラリー選手権」、「ラーメンストリート」、「オンライン・タングラム」である。また、組織開発の手法として、「アプリシエイティブ・インクワイアリー」、「ワールドカフェ」、「オープン・スペース・テクノロジー」、「フィードバック・ミーティング」などをオンラインで実施してきた。くわえて、2021年度の学生向けのTグループでは、緊急事態宣言下で自宅から参加したいと希望した学生とともに（私が積極的に設計したのではなく、他の選択肢がなかったために）、5日間のオンラインでのセッションも経験した。

授業や社会人向けの講座だけではなく、多くの打ち合わせや会議がオンラインで行われるようになった。大学外の方々との打ち合わせはほぼオンラインとなり、打ち合わせのための出張はなくなり、新幹線に乗る回数が減った。ちなみに、社会人対象のオンラインによる講座は、全国から、場合によっては海外から参加される方もいて、物理的な距離が講座への参加の足かせにならないというメリットを感じた。2020年度に開催した組織開発ラボラトリーでは、講師のブッシュ先生がカナダからオンラインでファシリテートすることで、クリアー・リーダーシップについて体験から学ぶ場を提供してくれた。このように、コロナ禍はオンラインでの関わりや学びの設計とファシリテーションに私の幅を広げてくれた。

企業の方々と関わることを通じて感じているのは、新型コロナウイルス終息後も、社会人を対象とした研修や打ち合わせのすべてが対面に戻ることはないだろうという予感だ。IT系、教育・コンサルティング・人材サービス系、営業系、開発系ではテレワークがかなり進んでおり、これらの業界・業種はオンラインによる会議や研修が継続されていくと予想している。

そうすると、コロナ禍あるいは新型コロナウイルス終息以降の人間関係で重要になってくることの1つが、オンラインでの会議や研修、そして、ハイブリッド（対面とオンラインの混在）での会議や研修における、効果的な話し合いや学習を目指した場づくりやファシリテーションだろう。オンラインでの自己組織化を実践している田原正人氏は、オンラインがリアル（対面）の劣化版ではない、共通するところと異なるところがある、と主張しているように、オンラインやハイブリッドでの人と人との関わりや学習、そして、それらの促進（ファシリテーション）には、対面とは異なる力やスキルが必要とされるだろう。そのため、オンラインでの体験学習の実施、オンライン会議のファシリテーション、オンラインでの組織開発の進め方について今後も探究していきたいと考えている。